

【報告1：北海道千歳市】

認知症地域支援推進員が活躍しやすい環境を行政がつくり、認知症の人が地域で暮らし続けるための多資源による連携体制を築く

～安全な運転・免許返納の支援の流れも一緒につくる～

千歳市保健福祉部高齢者支援課地域包括係
千歳市北区地域包括支援センター
千歳病院認知症疾患医療センター

吉原 毅
吉田 肇
作田 直人



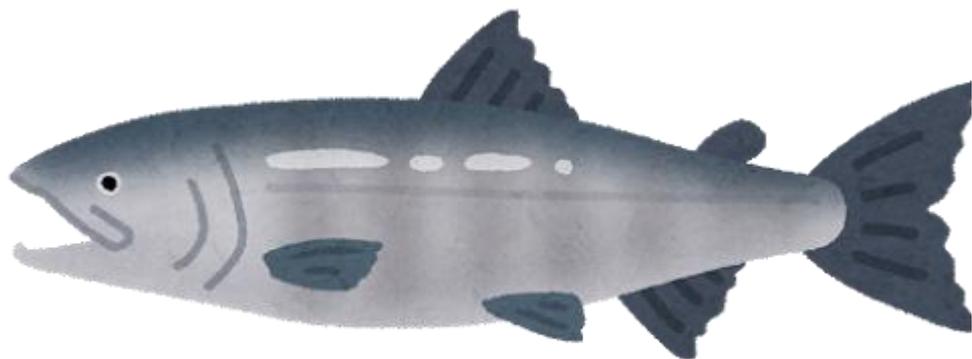
千歳市の概要

人口	96,353人	65歳以上人口	21,754人
高齢化率	22.5%	面積	594.5km ²
日常生活圏域数	5圏域	包括数	5カ所（委託5）
推進員数	2名（委託：精神保健福祉士1名、社会福祉士1名）		

- ・新千歳空港があり、北海道の「空の玄関口」として機能している。
- ・主要産業は新千歳空港の存在や支笏湖などの観光立地の関係からサービス業（産業別人口の約75%）、次いで製造業で製造品（出荷額道内4位）、大企業の工場が数多く存在している。
- ・人口の約25%が自衛隊員およびその関係者。
高齢化率が道内で最も低い。



(H30.10.1現在)



支笏湖エリア

支笏湖、オコタンベ湖、苔の洞門、巨木の森、野鳥の森、キャンプ場、恵庭岳、紋別岳、樽前山、風不死岳、支笏湖温泉、丸駒温泉などがあります。



空港・市街地エリア

新千歳空港、工業団地、自衛隊駐屯地、住宅地、商業施設、千歳科学技術大学などがあります。



農業地域エリア

観光牧場、観光農園、ファームレストラン、バレットの丘、ゴルフ場などがあります。



千歳市の認知症施策

5 認知症施策の推進

高齢者の増加とともに、増加が予想されている認知症高齢者への対応は重要な課題です。認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるためには、認知症と疑われる症状が発生した場合、早期発見・早期対応に基づく生活支援が必要となります。平成 28 年度から、認知症と疑われる初期の段階から医療と介護の複数の専門家が関与して高齢者やその家族を支援する認知症初期集中支援チームを設置しており、継続した事業展開を図ります。

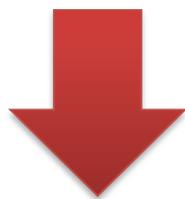
また、今後も認知症に対する正しい理解を深め、地域で支え合うことができるよう認知症サポーター養成講座の実施や認知症地域支援推進員による認知症に関する普及啓発を積極的に図り、認知症の方にやさしい地域づくりに取り組みます。



事業の配置状況

千歳市ではH24年～、地域包括が毎年増設

…H25年に3番目のセンターとして、北区地域包括支援センターを医療法人資生会に委託



病院に認知症疾患医療センターが設置された事を契機に

認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チームが委託



推進員① = 地域包括の社会福祉士・ケアマネジャー

推進員② = 認知症疾患医療センター・認知症初期集中支援チームの精神保健福祉士



千歳病院



疾患医療センター

認知症の鑑別・治療

初期集中支援チーム

初期・初動対応、医療・介護への連結

地域支援推進員 (PSW)

ネットワーク構築、対応力向上事業、啓発、個別対応など

地域支援推進員 (SW)

ネットワーク構築、対応力向上事業、啓発、個別対応など

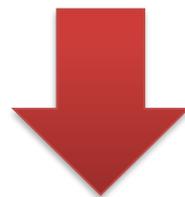
北区地域包括支援センター





活動の転換点 ①開始期の課題

推進員の配置時期と、担当係長の交代が同時期



推進員「市が何を求めてくるのか分からない」

市「推進員の人となりが分からない」

**どちらからも動けない…
ただ、いるだけの推進員…**



活動の転換点 ②きっかけ

H28推進員研修後…



やらなきゃいけない事がたくさんあるのは分かった
何の活動から始めたら良いのだろうか??

まず市内の医療・介護・福祉の資源を見直してみよう!



以前から
把握して
いた資源

+

新たに
発見した
資源

== ①活動へのヒント
②地盤固め

になると良いな！



係長からは…「基本的には好きにやって良いよ」
「専門のことは専門職に任せるのが一番だから」

どちらからも動けない…
ただ、いるだけの推進員…



大転換!!

やりたいこと・必要なこと
をやる推進員活動に！



市との意志疎通方法

- 定例会議：○月1回
- 前月の活動について報告
 - 今後の活動予定について確認

+ **雑談**

重要!!

※翌年の活動予定については、年度末の会議時に提出



その後の活動の展開

- H28年度** 認知症ケアパス作成
地域課題の洗い出し
地域密着型事業所との合同研修会
市民向け講座
- H29年度** H28年度に実施した事業の継続
介護・認知症予防ネットワーク構築
推進員研修での発表
認サポ・フォローアップ研修への協力
隣市との合同啓発事業
- H30年度** H29年度までに実施した事業の継続
高齢者運転についての検討会

千歳市の社会資源（H28当時）



地域密着型事業所・医療機関との合同研修会



グループホームと疾患医療センター・初期集中・推進員の合同研修会から始まり



1年かけて、市内の認知症に関する医療機関・事業所にまで対象が拡大

自衛隊向け認知症サポーター養成講座

【その他】自衛隊向け認知症サポーター養成講座

《経緯》

- ①千歳市ならではの認知症啓発は…?
⇒全道の推進員研修で他市から「自衛隊向け認サポしたい」
- ②千歳市は自衛隊が多い⇒千歳市で出来ないか??
- ③石狩振興局に計画報告と協力の打診⇒振興局でも計画!

↓
協力して計画することに

《役割分担》

- 振興局…陸上自衛隊方面総監部に依頼
- 推進員…講座担当
- キャラバンメイト事務局…日程調整・資料準備



上記3団体で市内各駐屯地へ依頼

千歳市ならではの認知症サポーター養成講座

全国でも数少ない『自衛隊向け』!



隣市・家族会との合同啓発事業



上映会の様子

活動報告

平成29年11月5日実施



会場は千歳市
 『千歳市認知症地域支援推進員』
 『千歳認知症の人を支える家族の会 (はまなすの会)』
 『恵庭市認知症地域支援推進員』
 の3者で主催

広報活動は、各メディアを活用!



月日	時間	内容	備考
8月	上旬~中旬	-1000の費用申請 -広告デザインの作成・使用許諾の確認 -コミュニティへの記事掲載打診	-作田、吉田が担当
9月	上旬	-高広館議会の提出 -ホスター等配布場所の選定	-原田は吉田が作成 -各関係実行委員が担当
9月	下旬	-ホスター等配布開始	-各関係実行委員が担当
10月	上旬	-コミュニティ誌の記事掲載依頼(権利)	-作田、吉田が担当
10月	下旬	-会場での上映機材の確認 -当日の配布物など最終確認	-機材の確認は作田 -吉田が担当
11月5日	開催		

結果...



400名定員の会場に**700名**もの来場者が! たくさんの方が認知症の実情を目にしてくれたが、会場は大混乱に...

12月17日に再上演



急な再上演、しかも2回目であるにも関わらず600名近くの市民が参加

2回合わせて1,000名弱の市民が!

福祉学習の様子

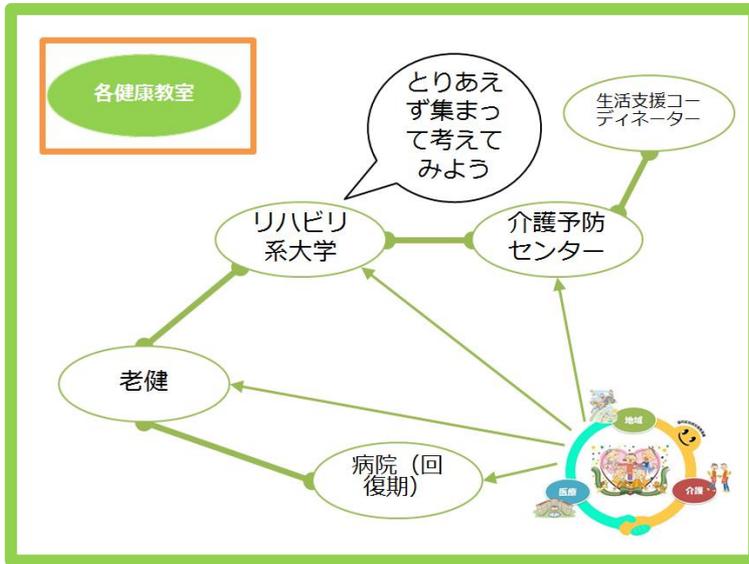
5年生福祉体験高齢者疑似体験
 認知症サポーター養成講座

2017年11月14日(火)



※画像は千歳市内で別の日に行った福祉学習のものですが。

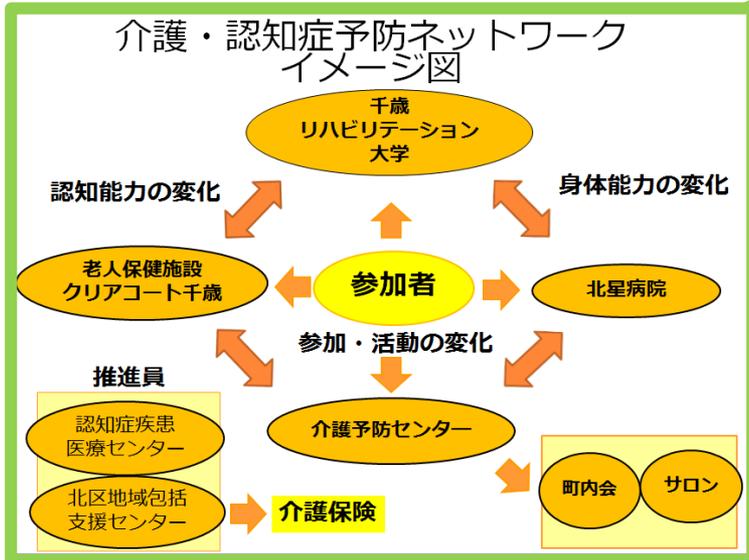
介護・認知症予防に関するネットワーク



介護・認知症予防ネットワーク設立！



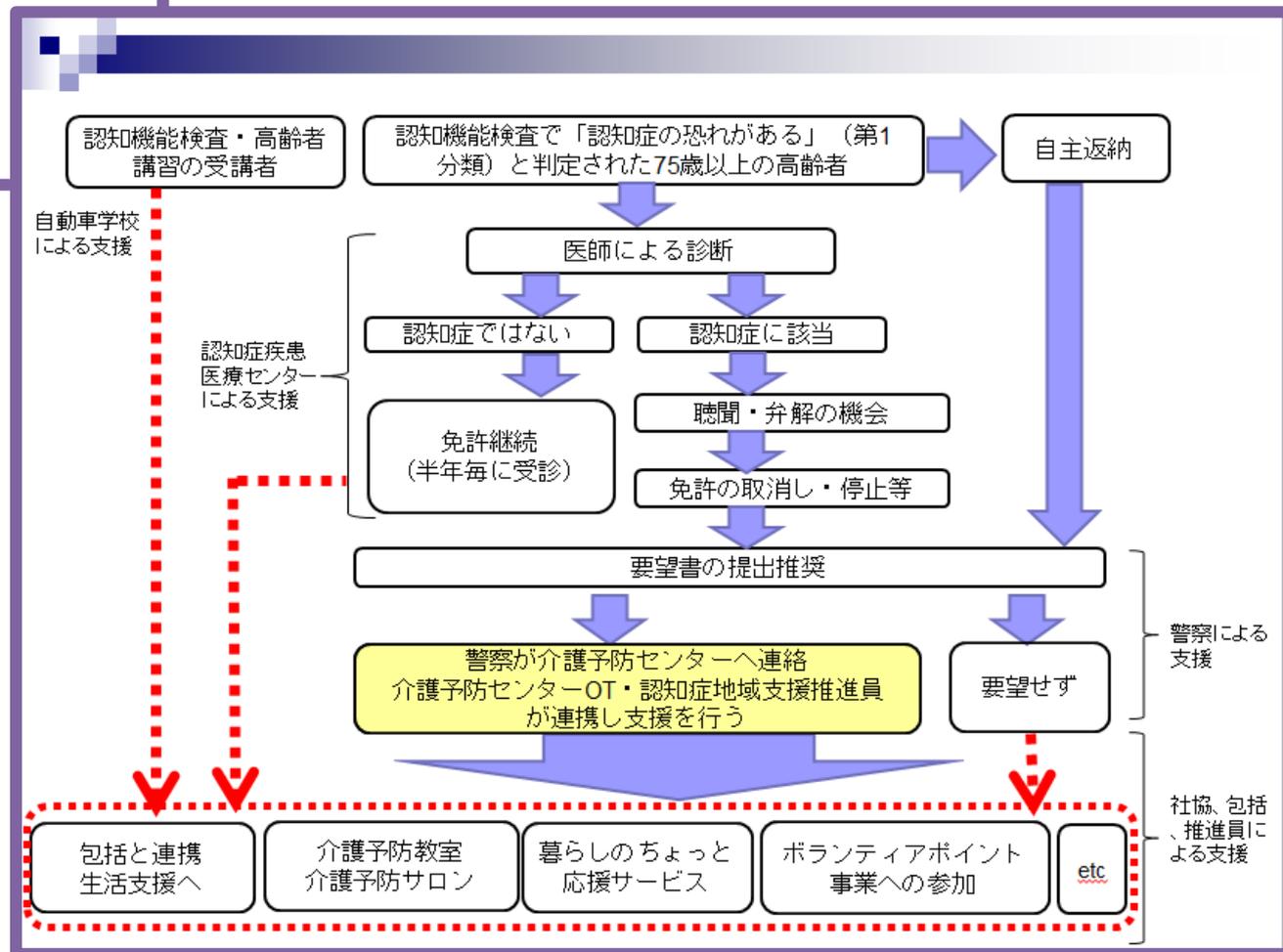
各教室担当者が集まり 課題・目的の共有
相互に活動を周知⇒全教室で参加者増加の成果



その後、さらに発展

高齢者の自動車運転・返納とその後の支援について

運転免許返納者への支援構想
千歳ver (山北案)



高齢者の自動車運転・返納とその後の支援について

滋賀県警察の取組「要望書受理制度」

資料7

要望書受理制度とは…

運転免許の返納又は取消し処分によって移動手段を失った高齢者が速やかに地域包括支援センター等からの生活支援を受けられるよう、高齢者本人から、市町の担当者への連絡を要請する文書(要望書)を受理し、**警察が市町の担当者へ連絡を行う**もの。

認知機能検査の結果、「認知症のおそれがある」(第1分類)と判定

警察から対象者へ連絡・面接日時の調整

面接の実施(最寄りの警察署の交通警察官が対応)

運転免許の継続を希望

運転免許の自主返納を希望

医師による診断

免許継続

認知症ではない

認知症に該当

聴聞・弁解の機会

免許の取消し・停止等

3人(全て取消し)

自主返納(申請による取消)

78人

要望書の提出勧奨

26人(うち、取消し2人、自主返納24人)

要望書が提出され、警察が市町の担当者へ連絡

26人

地域包括支援センターによる生活支援

要望書

「今後の生活支援などについてご相談したいので、市町の担当者への連絡をお願いします。」

要望せず

・既に支援を受けている方
・家族等が直接支援センターに連絡する意向を持っている方 等

警察による
免許返納者等
への支援

※ 人数は平成29年3月12日から6月30日までのもの。

※第6回認知症医療介護推進会議 警察庁資料より

高齢者の自動車運転・返納とその後の支援について

道千歳リハ大・高齢者運転などで研修会

OT、介護予防センター、警察署、推進員等連携 学校、認知症地域支援



「千歳モデル」報告

高齢者による交通事故が増える中、北海道千歳リハビリテーション大が17日に札幌市内で開いた研修会北海道の自動車運転と移動手段を考える会で、同大作業療法士千歳市介護予防センター、警察署、千歳自動車学校、認知症地域支援推進員の連携した千歳モデルを報告。OTなど専門職が連携し介護予防の一環としてトレーニングを啓発するほか、認知症初期集中支援につながった事例を報告地域で支える必要性も浮き彫りとなった。

研修会では千歳市の取り組みとして、同大介護予防センター、同市認知症疾患医療センター、同市北区地域包括支援センターが報告。同大の佐々木努教授（認定作業療法士）は、8月25日に同市内で開いた「運転寿命延伸に向けた地域向け講座」について解説。地域住民に向けて安全運転意識の向上

自動車運転と代替移動手段に関する意見交流を目的とし、警察署と自動車学校も講師として参加。国立長寿医療研究センターの調査によると、運転を中止し

認知症初期集中支援から 免許返納につなげた事例も

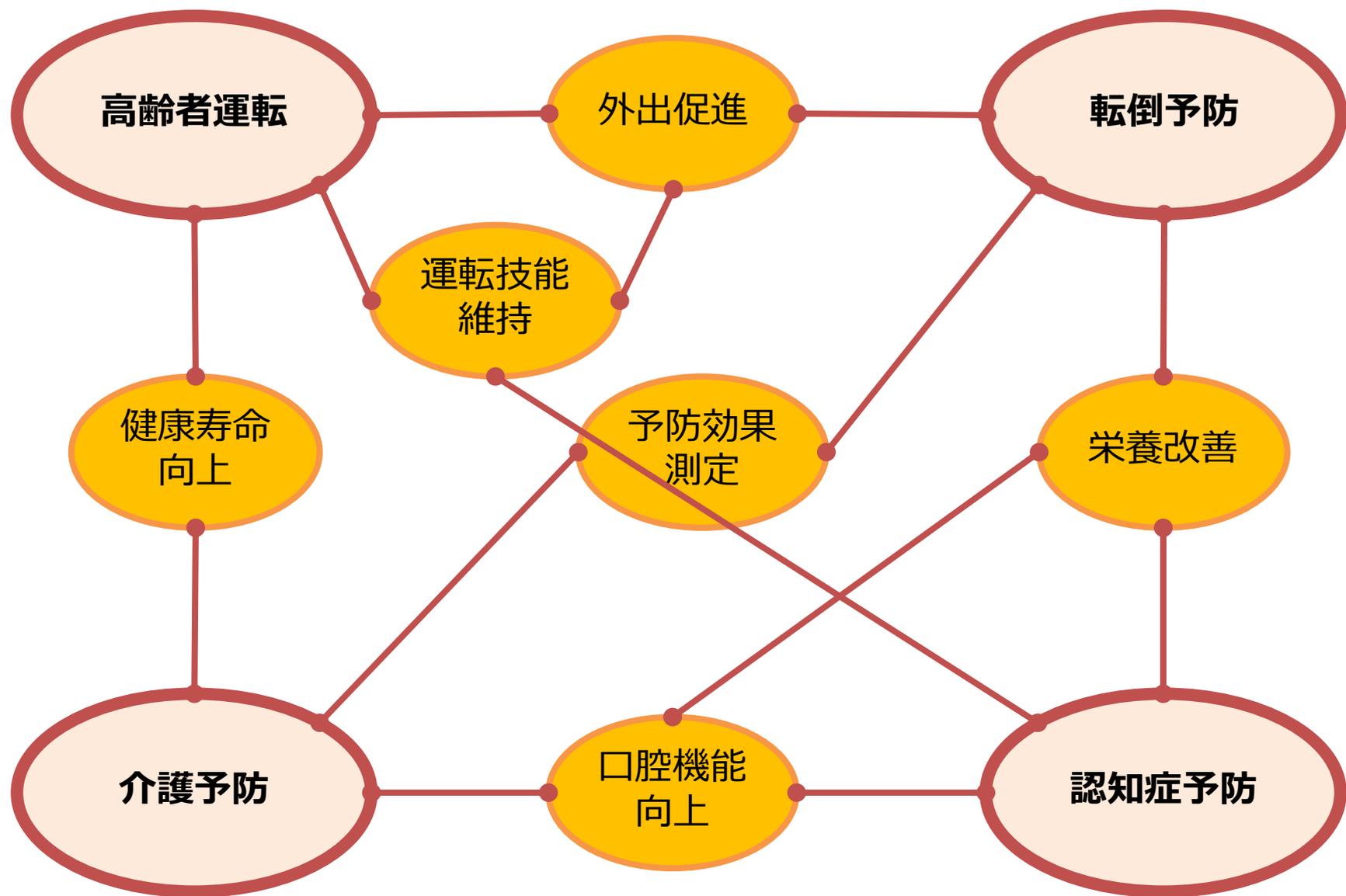
た高齢者は、継続している高齢者に比べ要介護状態になるリスクが8倍以上昇る結果を踏まえ、高齢者の運転特性を自覚し、なるべく長く運転し続けるために体と脳のト

地域で支える 必要性浮き彫り

リネーション活動支援事業活用を提唱。免許返納後は社協、地域包括C、認知症地域支援推進員が地域の支え合いやボランティア、介護予防教室などにつながる仕組みを構築した。実際に交通違反を犯したのがきっかけで警察から認知症疾患センターにつながる事例を、同センターの作田直人精神保健福祉士と北区地域包括Cの吉田肇社会福祉士が解説。2人とも認知

道作業療法士会は高齢者運転の課題として、▼運転しない方がよい人の見極め▼機能低下した人には訓練によって安全運転を維持▼道路や交通網などインフラ整備▼安全な自動車開発▼運転しなくても移動手段を確保できる公共サービス創出を挙げ、今後も検討していくと述べた。

さらなる活動の展開へ



千歳市の社会資源（H30現在）





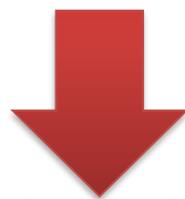
まとめ

きっかけはたった一言

「基本的には好きにやって良いよ」

「専門のことは専門職に任せるのが一番だから」

＝ 行政から専門職への『信頼』



『信頼』が推進員の活動を
支える力になる

ご清聴

ありがとうございました